

- ①・安全に食べて飲み込める毎日を
専門の嚥下チームがサポートします。
・医師の働き方改革への
ご理解とご協力をお願い
・新任のご挨拶
 - ②・名大病院臨床研修医のご紹介
・診療科レポート「呼吸器内科」
- ・鶴舞公開講座
 - ・ナディック通信
 - ・特定基金 医学部附属病院支援事業へ
のご協力をお願い
 - ・かわらばん HP のご案内

名古屋大学医学部附属病院

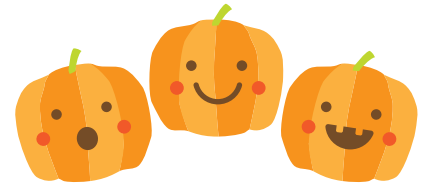
理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

基本方針 ● 1. 安全かつ高度な医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

名大病院
NEWSかわら
ばん2024.10
134号TOPICS ① 安全に食べて飲み込める毎日を
専門の嚥下チームがサポートします。

名大病院では入院患者さんが口から安全に食事がとれるように、スペシャリストからなる嚥下チームが活動しています。その活動内容や展望について、チームの皆さんにお聞きしました。



▲嚥下チームの皆さんと NST の管理栄養士

嚥下チームは飲み込みに問題がある患者さんに対応するため、定期的に各病棟を回診しています。口腔内の状態の評価、内視鏡・造影剤による嚥下機能検査の結果をもとに、誤嚥のリスクやとろみ食など適切な食事の形態を判断します。こうした情報は

多様な食事や訓練により、
飲み込みをサポート

嚥下チームは飲み込みに問題がある患者さんに対応するため、定期的に各病棟を回診しています。口腔内の状態の評価、内視鏡・造影剤による嚥下機能検査の結果をもとに、誤嚥のリスクやとろみ食など適切な食事の形態を判断します。こうした情報は

高度急性期病院である当院には、難病や複雑な症状を抱えた多くの患者さんが入院しています。手術や治療のために入院生活を送る中で問題の一つとなるのが、食べ物を飲み込む嚥下機能の低下です。嚥下機能が衰えると食事そのものが困難になり、体力の低下や基本的な治療に影響を与えます。しかも、誤嚥性肺炎を引き起こすリスクがあります。こうした事態を防ぐために活動しているのが、リハビリテーション科の医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、言語聴覚士からなる嚥下チームです。15年程前に発足し、現在は栄養管理を行う栄養サポートチーム（NST）の一員として、全病棟の入院患者さんを対象に活動を展開しています。

全身状態を左右する
嚥下機能の低下を防ぐ



▲嚥下チームによる回診の様子。内視鏡を使って液体の嚥下状態を数ccの単位で丁寧に評価していく。

入院中の嚥下の問題に関して、病棟看護師が嚥下チームとすぐに連携できる体制が整っているのが当院の強みです。近年高齢社会となり、主たる疾患の治療を終えても嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を起こして亡くなる方が増えていきます。そのため患者さんの退院時には、ご自宅や施設でも安全に食事がとれるよう食事の形態や調理の工夫について情報を提供し、ご家族にはご自宅でのケア方法などもお伝えしています。今後、嚥下チームではリスクの高い患者さんを中心にチームでの回診を増やすなど、活動の充実を検討しています。また、当院には希少な症例のデータが蓄積しており、全国で活用いただけるように情報を発信したいとも考えています。あらゆる患者さんの誤嚥を少しでも減らすことが目標です。よくむせるなど嚥下の状態が気になる場合は、入院患者さんは病棟の看護師へ、外来患者さんは耳鼻いんこう科の嚥下外来へご相談ください。

誤嚥を防ぐために、さらに活動の充実を

士が飲み込みのための筋力トレーニングを実施、食事の時の適切な姿勢や飲み込むタイミングなどをご本人と一緒に練習し、口から安全に食べられるようサポートしています。その後も都度、患者さんの状態に合わせてどの形態であれば食べられるのかを試し、とろみの濃度の調整やゼリー食への変更などのフォローもしています。

病棟看護師や病棟担当・NSTの管理栄養士とも共有され、入院中の給食に反映。管理栄養士は栄養面から必要であれば補助食品を追加するなど、できる限りその方が好んで食べやすい献立にしています。



新任のご挨拶

薬剤部長／教授 池末 裕明

令和6年9月1日付で薬剤部長／教授を拝命いたしました池末裕明と申します。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。薬剤部はさまざまな領域にわたる薬物治療に関わります。多くの診療科や職種と連携しながら、患者さんに安全で安心、効果的な薬物治療を円滑に提供すると共に、将来の医療に繋がる治験薬開発における薬剤の管理などを通して医療に貢献できるよう精一杯努力してまいります。薬に関するご相談などお気軽にスタッフにお声かけください。皆様におかれましては、今後ともご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

医師の働き方改革へのご理解と
ご協力をお願い

医師の働き方改革は、医師の過重労働を軽減しながら、安全で安心な質の高い医療を提供するという非常に難しい取り組みです。

名大病院では、その対策として、複数の医師によるチームで一人の患者さんを担当する複数主治医制を採用しています。病状説明や手術・処置の説明、相談対応は主治医が平日8時30分から17時15分の間に行い、休日や平日夜間は、主治医に代わり、当直医や当番医師が責任をもって対応しています。

説明者が変わる場合がありますが、チームでしっかりと情報を共有して対応していますので、患者さんやご家族の皆さまにおかれましてはご安心いただければと思います。

医師が健康に働き続けられる環境を整えることで、医療の質・安全は確保されます。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

特集 TOPICS **2**

名大病院 臨床研修医のご紹介

名大病院では医科歯科の研修医が医師としての道を歩み始めています。本シリーズでは、医師を目指して日々取り組む研修医の、フレッシュな意気込みを紹介します。



安藤 僚佑（医科研修医）

研修医というのは説明の難しい立場だと感じています。1人の医師ではありますが、試験勉強だけではわからないことが実際は山ほどあると日々実感する半人前でもあります。求められる一人前の責任と、半人前の実力の差を埋めるべく日夜邁進しており、帰路につく夜道で見かけた猫のケンカにも、ケガの具合が気になるほどです。患者さんに対して細やかに配慮できる医師を目指して、これからも日々研鑽を積んでまいります。（お近くで茶トラ猫と黒猫をお見かけされた方は、ぜひ様子を教えていただけますと幸いです）



石原 誠大（医科研修医）

私は今、初期研修医として様々な科を回っており、患者さんの毎日の診察や採血などの手技といったような技能の向上に努めております。以前診察にあたっていたある患者さんから「この科の研修が終わっても、また機会があればお話ししに来てください」と言っていただけたことは非常にうれしく感じ、研修の励みになっております。今はまだ学び始めたばかりで至らぬ点も多いですが、周りの方々の手助けや叱咤激励を糧にして、より成熟した医者になれるようがんばります。



松本 由梨子（歯科研修医）

私は現在、歯科口腔外科外来にて研修をしています。学生時代にも様々な疾患を学んできましたが、実際には歯科以外にも多くの全身疾患を抱えた患者さんを診るため、一人ひとりに最適な治療を計画することの重要性を感じています。座学と臨床の差を感じると同時に、自分の未熟さを痛感する場面もありますが、このような患者さんを診させていただけることは大学病院ならではの価値であるため、上級医の先生方のご指導の下、しっかりと多くのことを吸収できるよう日々精進しております。知識のみならず、患者さんに寄り添える歯科医師となれるよう励んでいきます。



診療科レポート「呼吸器内科」

呼吸器内科長 石井 誠



呼吸器内科は、さまざまな肺の病気の診療を行っています。具体的には、がんの中で世界／日本で最も死亡者数が多い肺がん、日本人の死因第5位である肺炎を含む呼吸器感染症、喘息などのアレルギー性疾患、タバコ病ともいわれる世界第3位の死因である慢性閉塞性肺疾患（COPD）、指定難病の特発性間質性肺炎を代表とするびまん性肺疾患などの診療になります。これらの診療では、患者さん一人ひとりの最適な治療のために、呼吸器外科、放射線科、化学療法部などの他の診療科と緊密に連携し、毎週合同カンファレンスを開催し、最適な治療方針を決定しています。特に肺がんは「がんゲノム医療中核拠点病院」として地域の連携病院の先生方と共に、最適な個別化医療の提供に邁進しています。

当院は2023年3月に国内で11番目の肺移植実施施設に認定されました。呼吸器外科に開設された肺移植外来を受診された患者さんは呼吸器内科にも受診し、肺移植の適応評価のための入院では、呼吸器内科で呼吸器外科や他科と連携して診療を行っています。すでに10人以上の患者さんが日本臓器移植ネットワークへの待機登録を完了しています。

私たち呼吸器内科のチームは、患者さんが安心して診療を受けられるよう、心を込めてサポートいたしますので、どうぞお気軽にお問い合わせください。

開講日時：令和6年12月14日（土）
13時30分～16時05分 ※終了時刻は予定
会 場：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟 A3階講堂／オンライン視聴
※ハイブリッド開催
定 員（入場無料・要事前申込）：
会場参加120名／オンライン視聴500名
申込締切：令和6年11月22日（金）※先着順
【申し込み方法】
○オンライン視聴の場合
名大病院ホームページより、専用フォームにてお申込みください。
○会場参加の場合
名大病院ホームページより、専用フォームにてお申込みいただくか、「名大受講申込書」をダウンロードし、郵送またはFAXで申込締切日までに届くようお送りください。（名大病院ホームページ）
※トップページ＞「病院からのお知らせ」
＞ 令和6年度名古屋大学鶴舞公開講座のご案内



URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/
★定員になり次第、受付を終了します。会場参加の場合、受講いただけない場合のみご連絡申し上げます。
★本公開講座のチラシは外来棟各階にも設置予定です。
【問合せ・申込み先】
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部総務課総務係 鶴舞公開講座担当あて
Tel (052) 744-2228 / Fax (052) 744-2785
E-mail：iga-tkk@t.mail.nagoya-u.ac.jp
【その他】
駐車場のご用意ができませんので、お越しの際は公共交通機関の利用をお願いいたします。

令和6年度名古屋大学鶴舞公開講座
「知っているようで意外と知らない認知症の今」

Nagoya Disease Information Center ナディック 通信

患者情報センター（広場ナディック）は、患者さんご家族が安心・納得して医療をうけることができるように、医療に関する情報収集ができる場所です。静かで安らげる空間の中で、書籍やパンフレットの閲覧をしていただけます。

コロナ禍の利用休止を経て本年3月より再開し、4か月間で約100名の方にご利用いただきました。感染対策をとりながら運営をしておりますので、皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

〈利用可能日〉入院患者さん：月・水・金曜日
外来患者さん：火・木曜日
〈利用時間〉平日10時～13時
（休日祝日年末年始を除く）

がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」は、外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応をしております。

（問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663）



特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟1階に置かれているパンフレットをご覧ください。
URL：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/

QRコードでもアクセスできます！

